

茅ヶ崎セントラルクリニック 吉田 衝未 (副院長/医師)

- 功 績** 理念実現時のイメージ統一に向けて、医師を中心とした質の高い医療体制を構築し、かつ医薬品使用高を削減し、運営に貢献した功績
- 推 薦 者** 阿部 重一 (院長/医局)
- 推 薦 理 由** 丁寧な診察を行うことで医薬品使用高を削減させ、運営に貢献し、かつ最低限の製剤で透析指標を改善させた事は理念に掲げる「専門的な高い技術による確かな医療」を体現し、質の向上に努めた事例と考え、理事長賞に推薦いたします。

内 容

非常勤医師がデータを読み、製剤の単位数を指示する流れであった為、製剤の使用量が大幅に増えておりました。利益を確保する上で最も改善しなければならないポイントでした。

平成28年度、Y大学より医師を派遣していただける事となり吉田副院長が着任後、改善に乗り出していただきました。

使用単位数が減ると同時に、製剤日当点が減少（着任前1,618点→着任後1,199点）し、医薬品使用高が大幅に削減され、予算達成の大きな要因となりました。

さらに透析指標においても指標（着任前Hb84.9%→着任後Hb94.1%）が改善され、製剤を多用する事が良い治療ではなく、その時その時、逐次的確な指示を出し、治療に臨む事がいかに大切かを体現してくれました。また組織にとって一番大きかったことが、医師を中心として各部署がチームとして動く体制に変化した事でした。

慣れていないうちは職員に戸惑いもありましたが、相談し易い雰囲気、的を射た的確な返答によりひとつひとつ結果が出るにつれ、職員の意識にも変化が見られ始め、治療対応、栄養指導の仕方、書類様式の変更や処方方法の変更など、自分達から私や副院長に積極的に提案してくるようになりました。職場環境調査においても全項目数値が改善されましたが、「仕事のやりがい」（4.04→4.29）と「勤続意欲」（3.70→4.31）の改善が著しく、理念実現時のイメージを統一するにあたって組織が同じ方向を向くのに非常に大きな役割を果たしてくれました。